

令和 6 年 度

埋蔵文化財調査士補

資 格 試 験

小論文問題・答案用紙

次の設問から 2 問を選び、答案用紙に選択した問題番号を記入の上、それぞれ 4 0 0 字以内で記述しなさい。

- ① 平成20年の「今後の埋蔵文化財保護体制のあり方について（報告）」において、「記録保存調査」において十分な能力をもつ地方公共団体等以外の組織による調査を容認したが、調査の実施に際し求められた要件はなにか記述しなさい。
- ② 縄文時代の集落跡の発掘調査方法について、調査の手順とポイントを、時系列に沿って具体的に記述しなさい。
- ③ なぜ自然科学分析を行うと過去のことかわかるのか、また遺跡の調査において、自然科学分析を応用する目的とはなにか記述しなさい。

受験番号	氏 名	(選択番号)	

試験日：令和 6 年 8 月 2 4 日（土）

会 場：「連合会館」東京・御茶ノ水

公益社団法人 日本文化財保護協会

埋蔵文化財調査士補 記述試験模範解答

①

キーワード

- ・発掘調査を行う調査組織の質の確保、「公益性の認識」
- ・個々の発掘調査における質と適正性の確保 地域の特性に応じた調査
- ・当該地方自治体による調査組織及び発掘調査の適切な監理 等

②

解答例(下記内容が書かれていること)

- ・文化財保護法では、埋蔵文化財は、地域の歴史や文化の成り立ちをあきらかにする上で重要なもので、国民共有の財産としている。
- ・発掘調査を実施する場合、頭に入れておく点は、発掘調査自体も遺跡破壊の側面を持っていることであり、一度調査した遺跡は元に戻すことができない。
- ・土器や石器の形式研究、出土層位、分布研究は重要で、当時の人々の生活、集落の同時性などを考えるてがかりとなる。
- ・発掘調査にあたり、常に発掘調査の原因や目的を考え、調査を進める必要がある。
- ・調査を勧めながら、出土遺物、調査写真や調査図面、出土遺物台帳を作成し、報告書制作の準備を進めておくとも重要となる。
- ・加えて発掘調査前の段階で遺跡の調査歴や研究史を学んでおく必要がある。
- ・調査をスムーズに進めるために試掘調査も有効に活用したい。

③

＜解答例＞赤字キーワード

生物は、他の生物集団、自分達を取り巻く気候的環境、土地的環境と相互に密接に関係し、その中で最も適した場所で生活している。そのため化石を調べることで過去の環境を明らかにできるが、化石により生産量や残りのやすさが異なるため複合的な解析が重要である。さらにテフラなどの鍵層、年代測定や遺物の編年なども含めて層序を確立、対比することで、より地域的な環境変動を明らかにできる。それによって人類の活動や歴史の背景を明らかにできる。また、化石に残された切断や焼いた痕跡や出土状況などから、直接的・間接的な生業の資料を得ることができる。さらには、これから未来に向けての人と自然の関わり合いに対する指針を与えてくれる。

記述問題のポイント

- ・生物が周辺環境と相互に関連して中で最も適した場所で生活
- ・複合的な調査
- ・鍵層と層序の確立
- ・化石に残される痕跡や出土状況より、直接的・間接的な生業の情報が得られる
- ・未来に関する指針を得る